### 富岡製糸場と 絹産業遺産群へのアクセス

### 富岡製糸場

[場 所]富岡市富岡1-1

[交 通]公共交通機関/上信電鉄上州富岡駅から徒歩約15分 車/上信越自動車道富岡I.C.から各市営駐車場まで約10分、

有料駐車場から徒歩約10分、無料駐車場から徒歩約20分

[駐車場]地図中P1(有料)、富岡駅東無料駐車場 [時 間]9時~17時(受付は、16時30分まで)

「休日112月29日~31日

※点検・整備などで臨時休場となる場合があります。

[料 金]大人1,000円、高校·大学生(要学生証)250円、小·中学生150円 ●見学ガイド/定時解説(約40分)あり(有料1人1回大人200円、 中学生以下100円)・音声ガイド機の貸出(200円)

●トイレ/場内および各市営駐車場、各まちなか交流館 [問合先] 富岡製糸場内総合案内所 TEL0274-67-0075





### 田島弥平旧宅

[場 所]伊勢崎市境島村2243

[交 通]公共交通機関/JR高崎線本庄駅からタクシー約20分、

東武伊勢崎線境町駅からタクシー約15分、JR上越新幹線 本庄早稲田駅からタクシー約25分、土日祝のみ東武伊勢崎線 境町駅から無料シャトルバス約25分

車/関越自動車道本庄児玉I.C.から無料駐車場まで約20分 駐車場から徒歩約10分

[駐車場]島村蚕のふるさと公園駐車場、田島弥平旧宅案内所駐車場 [時 間]9時~16時

[注意]個人名で現在も居住しているため、見学の際はご配慮ください。 見学範囲は庭及び桑場1階。毎月第3日曜日に主屋1階上段の間を公開。

その他の建物内部は非公開。 [休 日]12月29日~1月3日

ただし、案内所は年末年始のほかに臨時休館になる場合があります。

●見学ガイド/無料ガイドあり

※詳細は、田島弥平旧宅案内所に問い合わせください。 ●トイレ/島村蚕のふるさと公園、田島弥平旧宅案内所

[問合先] 田島弥平旧宅案内所 TEL0270-61-5924





### 高山社跡

[場 所] 藤岡市高山237 [交 通] 公共交通機関/JR高崎線新町駅または JR八高線群馬藤岡駅からバス約35分、 JR八高線群馬藤岡駅からタクシー約25分 車/上信越自動車道藤岡I.C.から

無料駐車場まで約20分、 駐車場から徒歩約5分

[駐車場] 高山社跡駐車場(無料) [時 間] 9時~17時

[休 日] 12月28日~1月4日

●見学ガイド/解説員が常駐(無料)

●トイレ/高山社跡前、駐車場 [問合先] 高山社情報館 TEL0274-23-7703





### 荒船風穴

[場 所] 下仁田町南野牧甲10690-2外 [交 通] 公共交通機関/上信電鉄下仁田駅から

タクシー約30分 車/上信越自動車道下仁田I.C.から 無料駐車場まで約50分、 駐車場から徒歩約20分

[注意]急勾配な山道のため、動きやすい服装でお越しください。 [駐車場] P1/荒船風穴駐車場

P2/神津牧場駐車場 「時 間] 9時30分~16時(受付は、15時30分まで) [休日] 12月~3月は冬季閉鎖 (下仁田町歴史館では、荒船風穴に関する資料を展示しているのでご利用ください。)

[料 金] 大人500円(下仁田町在住者は無料)

●見学ガイド/解説員が常駐(無料)

●トイレ/駐車場、見学者広場

[問合先] 下仁田町歴史館 TEL0274-82-5345



画像提供:富岡市(斜めから見た東置繭所)、藤岡市教育委員会(長屋門)、下仁田町(風穴から吹き出す冷気)、群馬県立日本絹の里(蚕種、蚕

発行/群馬県企画部世界遺産課(平成31年3月)

TEL027-226-2328 FAX027-224-2812 E-MAIL sekaiisan@pref.gunma.lg.jp

富岡製糸場と絹産業遺産群 公式ホームページ

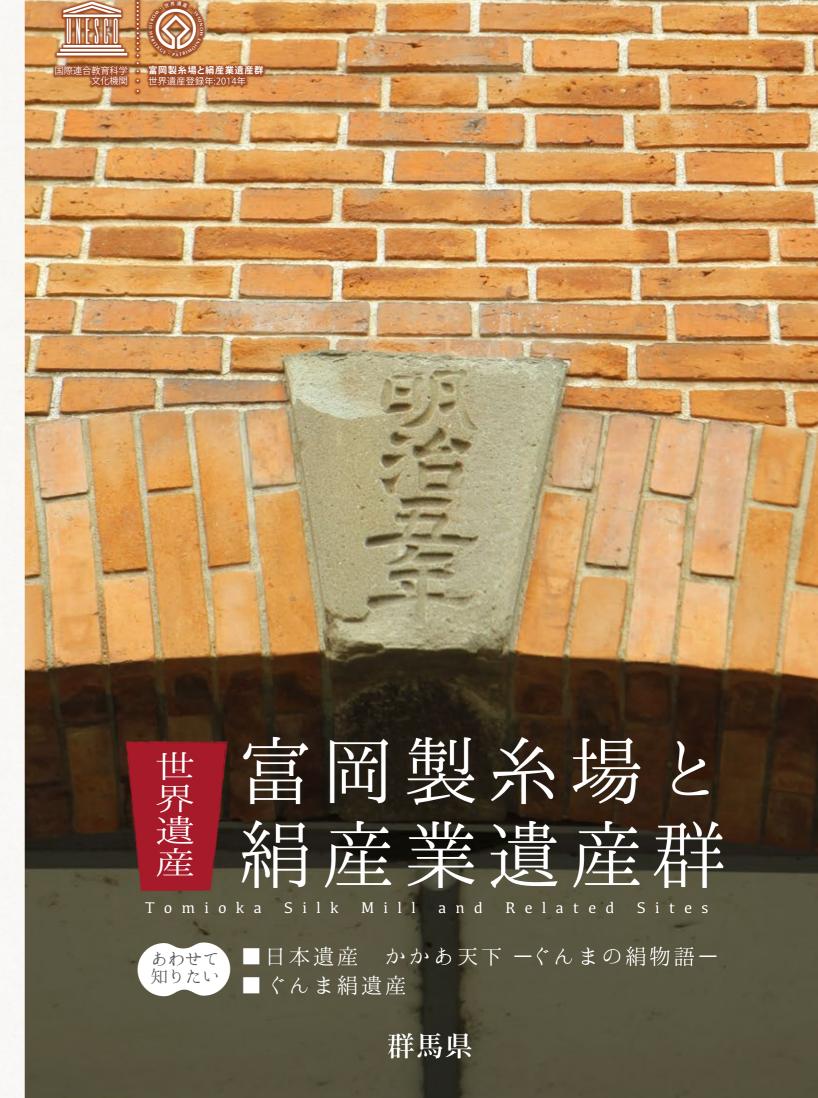
http://worldheritage.pref.gunma.jp (「とみきぬ」で検索)



群馬県公式無料アプリ









# 富岡製糸場と 絹産業遺産群とは

### -世界遺産としての価値-

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、長い間生産量が限られていた生糸 の大量生産を実現した「技術革新」と、世界と日本との間の「技術交 流」を主題とした近代の絹産業に関する遺産です。

日本が開発した生糸の大量生産技術は、かつて一部の特権階級のも のであった絹を世界中の人々に広め、その生活や文化をさらに豊か なものに変えました。富岡製糸場と3つの養蚕に関わる資産(田島弥 平旧宅・高山社跡・荒船風穴)は、そのことを今に伝える証なのです。

### -相互連携により良質な繭を開発・普及-

「富岡製糸場と絹産業遺産群」を構成する4資産は、それぞれが技術 革新の場であるとともに、相互に連携し技術の交流を行っていまし た。特に富岡製糸場が良質な繭を大量に確保するために行った繭の 改良運動の際は、田島家・高山社・荒船風穴が試験飼育や蚕種製造、 飼育指導、蚕種貯蔵など優良品種の開発と普及に協力しました。







## 世界遺産とは

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)がつくる世界 遺産リストに登録された、国や民族を超えて共有す べき「顕著で普遍的な価値」をもつ人類共通の財産で す。2018年7月現在、世界で1,092件選ばれており、 日本には22件あります。世界遺産には、文化遺産(城 や神殿、街並みなど)、自然遺産(山、渓谷など)、複合 遺産(文化と自然両方にあてはまる遺産)がありま す。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は文化遺産として、 2014年6月に世界遺産に登録されました。

### 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の 世界遺産登録までの歩み

2013年 1月 国が推薦書をユネスコに提出

(国際記念物遺跡会議)委員による現地調査

6月 ユネスコ世界遺産委員会で世界遺産に登録

# ②製糸

### 9月 ユネスコの諮問機関であるイコモス

### 2014年 4月 イコモスによる登録勧告

### 産業遺産

古い工場や炭鉱、運河や鉄道などをはじめ、農業や林業、水産業に関する遺産などです。 例えば、イギリスの世界で一番古い鉄の橋、フランスの塩を作る工場やドイツの鉄を作る 工場などです。これらは、人類の歴史を大きく変えた産業革命に関係した遺産などです。 ヨーロッパの国々を中心に世界遺産にも数多く登録されています。富岡製糸場は、日本を 代表する産業遺産です。

### 絹産業の歴史

絹は紀元前の中国で生産が始まり、のちに日本やヨーロッパに伝えられました。19世紀のヨー ロッパで器械製糸が始まりましたが、蚕の伝染病の流行により原料不足が起きました。このこ ろ開国した日本は器械製糸技術を輸入し、1872年(明治5)にはモデル工場として富岡製糸場 が創られ、国内の製糸業が近代化しました。また、独自に養蚕の技術革新も起こり、原料となる 繭の大量生産に成功しました。製糸も継続的な技術革新が進められた結果、日本は20世紀初め には世界一の生糸輸出国となり、高級繊維の絹をより身近な存在に変えました。さらに第二次 世界大戦後は、生糸生産のオートメーション化にも成功、自動繰糸機は全世界に輸出されまし た。日本で開発された養蚕製糸技術は、今日でも世界の絹産業を支えています。

### **絹産業**織物ができるまで~養蚕·製糸を学ぼう~

生糸は、桑を食べて成長する蚕(カイコガの幼虫)が作る繭を原料としています。 桑を育て、蚕を飼って繭を作らせるのが「養蚕業」です。そして、この繭から生糸を作るのが「製糸 業」です。数個から数十個の繭糸を合わせて1本の生糸を作ります。この生糸をさらに加工し、染 め、織ることで絹織物が作られます。









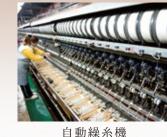


①養蚕

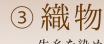
蚕の餌の桑を育て、

蚕を飼育し、 つくらせた繭を

出荷します。







生糸を染め、 織り、反物などに 仕上げます。







# 世界富岡製糸場と絹産業遺産群

# 富岡製糸場

フランスの技術を導入した 日本初の本格的製糸工場

明治5年(1872)に明治政府が設立した官営の器械製糸工場です。 民営化(1893)後も一貫して製糸を行い、製糸技術開発の最先端と して国内養蚕・製糸業を世界一の水準に牽引しました。また、田島 家、高山社、荒船風穴などと連携して、蚕の優良品種の開発と普及 を主導しました。和洋技術を混交した工場建築の代表であり、長さ 100mを超える木骨煉瓦造の東置繭所、西置繭所や繰糸所など、主 要な施設が創業当時のままほぼ完全に残されています。

平成26年12月に、繰糸所、東置繭所、西置繭所が国宝に指定されました。

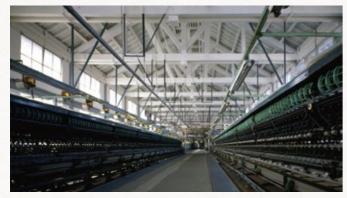




## 見どころ

### 歴史を物語る壮大な建物群

富岡製糸場には、創業当初の明治初期の建物が、ほぼそのままの形で残されています。



繰糸所

繭から生糸を作る施設で製糸工場の中心となる建物です。長さ約140mもある長大な木骨煉瓦造建物で、内部には操業停止時の自動繰糸機が保存されています。



首長館(ブリュナ館)

建設・操業を指導したフランス人、ポール・ブリュナが家族と暮らしていた住宅です。

## 田島弥平旧宅

瓦屋根に換気設備を取り付けた 近代養蚕農家建築の原型



## 高山社跡

日本の近代養蚕法の標準「清温育」を 開発した養蚕教育機関



## 荒船風穴

自然の冷気を利用した 日本で最大規模の蚕種貯蔵施設



通風を重視した蚕の飼育法「清涼育」を大成した田島弥平が、文久3年(1863)に建てた住居兼蚕室です。間口約25m、奥行約9mの瓦葺き総2階建てで、初めて屋根に換気用の越屋根が付けられました。この構造は、弥平が「清涼育」普及のために著した、「養蚕新論」「続養蚕新論」によって各地に広まり、近代養蚕農家建築の原型になりました。



### 蚕種製造に関わる各種建造物

田島弥平旧宅には、住居兼蚕室をはじめ、蚕種製造に関わる 各種建造物が残されています。





桑場

井戸

明治16年(1883)、高山長五郎は、通風と温度管理を調和させた「清温育」という蚕の飼育法を確立しました。翌年、この地に設立された養蚕教育機関高山社は、その技術を全国及び海外に広め、「清温育」は全国標準の養蚕法となりました。明治24年(1891)に建てられた住居兼蚕室は、「清温育」に最適な構造で、多くの実習生が学びました。



### 風と火を操る蚕室

高山社跡には、「清温育」を行うための理想的な住居兼蚕室や





蚕室

明治38年(1905)から大正3年(1914)に造られました。 岩の隙間から吹き出す冷風を利用した蚕種(蚕の卵)の貯 蔵施設で、冷蔵技術を活かし、当時年1回だった養蚕を複数 回可能にし、繭の増産に貢献しました。3基の風穴があり、 貯蔵能力は国内最大規模で、取引先は全国40道府県をは じめ朝鮮半島にも及びました。



### 夏でも冷気が吹き出す石積み

荒船風穴の周辺は、岩の隙間から夏でも2℃前後の冷風が吹き出しています。この冷風を利用するために、山の斜面に石積みを築





風穴から吹き出す冷気

風穴の全体模型

## 日本遺産とは

地域の文化や伝統の魅力をひとつの物語として紹介したものが日本遺産 です。物語を読み解くように複数の有形・無形の文化財を訪れることで、こ れまでとは違った歴史の奥深さや地域の魅力を発見することができます。 平成27年から文化庁が始めた制度で、第1回認定の18件のひとつとして、 「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」が日本遺産となりました。



日本遺産



### 永井いと像 (片品村)

永井流養蚕術を確立した 永井紺周郎の妻いとが、養 **蚕について講義を行う姿** を描いた掛け軸です。机に 置かれた数枚の種紙から 左手で一枚取り、右手の手 振りを交えて真剣に話す 表情がうかがえます。

### かかあま下一ぐんまの絹物語ー

かつて群馬では、女性が養蚕や製糸、織物で家計を支えていました。 また、近代になると、女性たちは製糸工女や織手として活躍しました。 働き者の女性達を男性たちは、「おれのかかあは天下一」と褒めたたえ、 これが「かかあ天下」として上州名物になりました。

「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」は、こうした「かかあ」たちが支え た群馬の絹産業を13の構成文化財で紹介しています。

### 



伝習所実習棟(片品村)

永井紺周郎の妻いとが夫亡き後に意 志を継いで設立。「農家の財布の紐は かかあが握るべし」と説きました。



甘楽町の養蚕・ 製糸·織物資料(甘楽町)

大正初期には約7割の世帯が養蚕農 家だった甘楽町で使用された養蚕・製 糸・織物道具や資料333点です。



桐生市桐生新町伝統的 建造物群保存地区(桐生市) 商家と共に織物工場や寄宿舎、銭湯な どが残り、工場の形態や女工の暮らし が偲ばれる場所です。



富沢家住宅(中之条町) 江戸後期の大型養蚕農家で、地元で名 主を代々務めた旧家です。2階を養蚕 に使い、女性達が活躍しました。

甘楽社

小幡組

由来碑 (甘楽町)

村に養蚕をし ない家は無く、 製糸をしない女

性は無い」とい う意味の文があ

る貴重な史料で



建造物群保存地区(中之条町) 明治後半から昭和中期に養蚕が盛ん だった地区で、集落の発展は女性達の 養蚕や織物に支えられました。



白瀧神社(桐生市)

桐生に絹織物の技術を伝えたとされ る自瀧姫の伝説は絹商人や機織り女 達の信仰を集めました。



レンガ造り倉庫(甘楽町)

大正15年建設。養蚕農家の各家の女性

が座繰りでひいた生糸を持ち寄り、品

質をそろえて共同販売しました。

旧小幡組製糸

旧模範工場桐生撚糸 合資会社事務所棟(桐生市)

明治から戦前まで稼働した大規模撚 糸工場で、場内に学校を置くなど女工 に技術と教育を施しました。



後藤織物(桐生市)

明治初期に洋式染色技術を導入した 工場で、現在も熟練の女性従業員など が帯地などの織物を生産しています。



織物参考館"紫"(桐生市) 高級織物"お召し"の技術を今に伝え、 手織り機などの道具を公開し女性従 業員が説明や実演をしています。



桐生織物会館旧館(桐生市) かつて女子職員が業務を支えた桐生 織物同業組合の事務所でした。現在は

記念館として展示などをしています。

## ぐんま 絹遺産

# ぐんま絹遺産とは

群馬県は、古くから絹産業の盛んな地であり、たくさんの絹に関する文化財などが 残っています。群馬県では、県内に残る養蚕・製糸・織物などの絹産業に関わる建造 物や民俗芸能などを「ぐんま絹遺産」として登録し、「ぐんまのたからもの」として 保存活用を図っています。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、ぐんま絹遺産の代表的な存在なのです。

### 養蚕・製糸に関するもの



旧関根家住宅(前橋市)

赤城南麓に多くみられた典型的な養蚕農家で赤 城型民家と呼ばれます。



旧碓氷社本社事務所(安中市)

碓氷社は、明治11年(1878)に農家が組合員とな り組織した県内初の組合製糸です。この本社事務 所は、明治38年(1905)に建てられました。



日本基督教団島村教会(伊勢崎市)

蚕種業者の田島善平らが蚕種の輸出で横浜に 行った際にキリスト教に触れ、現在の場所に建築 されました。



薄根の大クワ(沼田市)

山桑では日本一の巨木で、地元では「養蚕の神」と して祀られています。



下南室太々御神楽の養蚕の舞(渋川市)

蚕の掃き立てから繭の収穫まで、養蚕飼育の手順 やしぐさを丁寧に表現した神楽の演目です。



旧新町紡績所(高崎市)

明治10年(1877)に操業を開始した国内最初の 官営屑糸紡績工場です。製糸に適さない屑糸や屑 繭の絹糸紡績を行っていました。※原則非公開

### 織物に関するもの



### 彦部家住宅 桐生市)

主屋は、江戸時代初期の民家 として、関東地方でも最古級 の建物です。主屋の北側は、 汀戸時代から染織工場とし て使用されていました。

株式会社(桐生市) 明治時代初頭に創業された 織物工場で、工場は大正8年 (1919)12月に完成し当初は 6連の鋸屋根でした。外壁の レンガは東京駅のレンガを 製作した埼玉県深谷市内の 工場で作られています。

### 流通に関するもの



### 碓氷峠鉄道施設 (安中市)

急勾配をアプト式の登坂 機構で克服し、当時の重 要な輸出品であった生糸 や繭などを運びました。



### 旧大間々銀行本店 及び土蔵(みどり市)

大間々銀行は、繭と生糸の売買の 際の融資を主な目的として、明治 16年(1883)に群馬県最初の私 立銀行として開業しました。この 建物は、大正10年(1921)に建築

